



SCHEDULE 1992 ANTIQUES FAIR

ミルクホールでは、毎月第二土・日曜日
骨董・ガラクタ市を開催致しております。
生活の中で、役立つもの、木の風合いを大切に、
昔の人の知恵や、温かい心に触れられる。
蚤の市は、ミルクホールにて 朝9時より 夕方まで

1.11 Sat. 12 Sun.

2.8 Sat. 9 Sun.

SILENCE

箱根細工の音

薄暗い竹やぶを掻きわけ、苔むした鎌倉石の洞窟をくぐり抜けると目の前には小さな谷戸が現われる。その昔には格好な要塞か、それとも落ち武者たちの隠れ里にでもなったのだろうか。岩肌の剥き出した山々に囲まれ、見たところその、人がやっと二人並んで歩ける程度の洞窟だけが外界に通じる唯一の道である。

それでも今では、かなりの門構えの家が三つほど建って居る。いつも薄暗くどんな晴れた日にも木漏れ日しか届かない。洞窟の入り口に掛けられた、三つの表札がかえって謎めいて、妙な好奇心を煽るのである。どの家にも人の気配はない。

その三つの家の一番奥の少し高い所にある家が、彼の家である。呼び鈴を鳴らしても返事はない。彼は書齋にいる。

薄暗く長い廊下を通り抜けると、ドアが少し開いていつものように彼が顔をのぞかせた。『やあ、来たのかい?』部屋に入ると、暖かく、テーブルには二人分の紅茶とケーキが用意されている。彼と私は大学時代からの友人ではあるが、もともとそれほどの交流はない。十年前、彼は私に家に来るように誘った。以来、私は不意に思いついてこの家を訪れるのだが、今まで彼が留守にしていたことは一度もない。何故かいつも私が来る時を知っていたかのように暖かいお茶が二人分用意されている。それもこの十年間変わらない。

奥さんが用意しているのだろう。この部屋にはいつも残り香がある。たった今までそこに座っていたかのような・・・彼の奥さんを見かけたのも最初に訪ねた時一度きりだ。それも和服の後ろ姿をちらりとだけ。その時の香りがそのままにこの部屋にはある。窓の外にはちらちら雪が降り出したようだ。向かい側の岩肌にも雪は風に舞い降りる。

カラ カラ カラ・・・『ん? 何か言った?』『いや、何も・・・』カラ カラ カラ・・・耳をよく澄ますと、机の上の箱根細工の箱がカタカタ音を立てているようだ。彼は大切そうに箱を手にした。『珍しいな、近頃何も言わなくなったと思っていたのに・・・』カラ カラ カラ・・・とまた音。彼はいつそ大切そうに箱を両手の中に暖める。音はいつまでも止まない。

気がつくともう夜半で、寺々では除夜の鐘を打ち始めたようだ。鐘の音は重く低く唸るように谷底に鳴り響いていく。『・・・その箱の中には、いったい何が入っているの?』『・・・・・・・・この箱の中には、僕の妻の骨が入っているんだ。もう僕にも二度と取り出すことはできないけれどね。彼女は今とても幸せそうだよ。何よりこの谷間に舞い降りる雪が好きなんだ。』『君の奥さん、亡くなったのかい!』『もう ずっと昔にね。もう十二年も前の事だよ・・・』



A HAPPY NEW YEAR

Milk Hall Times 37th

COMÉDIÉ

くるま座便り

ミルクホールにも、どうやら無事今年も正月が来たようで忘れ物やら亡くし物のやらを捜しに行こうにも、バタバタと音を立てて去って行った1991年を追いかけても届かず、1992年の夜明けはまた来てしまいました。

忘れ物やら、亡くし物やらを箱いっぱい詰め込んだようなそんな 劇団『くるま座』の御紹介です。

座長 磯見辰典氏率いるこの不定形で小さな劇団は、いつも何だか、不思議で難しくてよく分からないお話ばかりを上演しています。そのせいなのでしょうが、磯見氏のもとに集まった物見高いシロウト役者たちは、それぞれ忙しい中を、次も次もと、どんどん引き込まれて行くようです。

その難解な脚本と、舌を噛みそうな原作者の名前。それでも上演が終わって見ると『ああ そうだったのか』と納得する。見た人も、演じた人も、ひとつふたつ忘れ物を見つけたような気持ちにさせてくれるのです。

今回の公演も ミルクホールの仲間たちは、演じ、協力して今年6月、くるま座に集合します。

| 劇団 | くるま座 | 主な軌跡 |
|----------|------------------|--------------------|
| 昭和55年4月 | クリスティーナ作「車をひく少年」 | 鎌倉雪の下教会聖堂にて 上演 |
| 昭和59年5月 | ル・フォール原作「ル・カス」 | ミカエル学園跡地(野外ミュージカル) |
| 昭和61年11月 | 「断頭台の下の最後の女」 | 鎌倉中央公民館分館・朝日生命ホール |
| 昭和62年6月 | 「靴屋の夢」 | 磯見辰典作 |
| 昭和63年6月 | 「不在の人」 | アンリ・ゲオン作 |
| 平成3年 6月 | 「黄金の国」 | 遠藤周作脚本 |
| 同年 12月 | 「沈黙」 | より/磯見辰典演出 |

次回 公演のお知らせ
劇団「くるま座」第9回公演 平成4年 6月上演予定
「黄金の国」遠藤周作脚本～小説『沈黙』より/磯見辰典演出
鎌倉中央公民館分館・朝日生命ホールにて



ミルクホール

蚤の市

骨董・ガラクタ市
毎月第二土・日曜
朝9時より